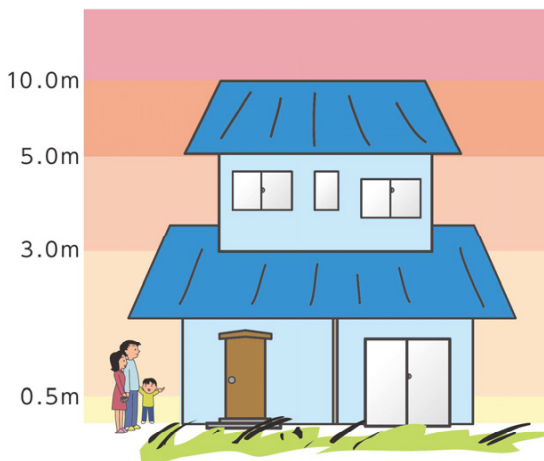


洪水ハザード情報について

1 洪水浸水想定区域について

- このハザードマップで使用している浸水情報は、水防法の規定により指定された洪水浸水想定区域を示したものです。安平川・支安平川・遠浅川・ニタッポロ川が大雨により氾濫した場合に浸水が予想される区域と浸水の深さを示しています。自分の住んでいる地区がどの程度浸水するのか確認してください。
- このハザードマップは、「想定最大規模」の洪水浸水想定区域及び浸水した場合に想定される水深を示しています。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水の深さになったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水する可能性があります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合がありますので十分注意してください。
- 浸水が始まってからの避難は危険です。浸水が始まる前に避難をはじめてください。外に避難することが危険な場合は、建物の高い場所など、想定される浸水の深さよりも高い場所に避難しましょう。
- 大雨が夜に予想されているときは特に注意してください。暗くなってから大雨の中を避難することは危険ですので、早めの避難を心がけてください。
- 浸水の深さの目安

10.0m～20.0m未満の区域	———
5.0m～10.0m未満の区域	2階の屋根以上が浸水する程度
3.0m～ 5.0m未満の区域	2階の軒下まで浸水する程度
0.5m～ 3.0m未満の区域	1階の全てが浸水する程度
0.5m未満の区域	大人の膝までつかる程度



2 洪水情報の種類

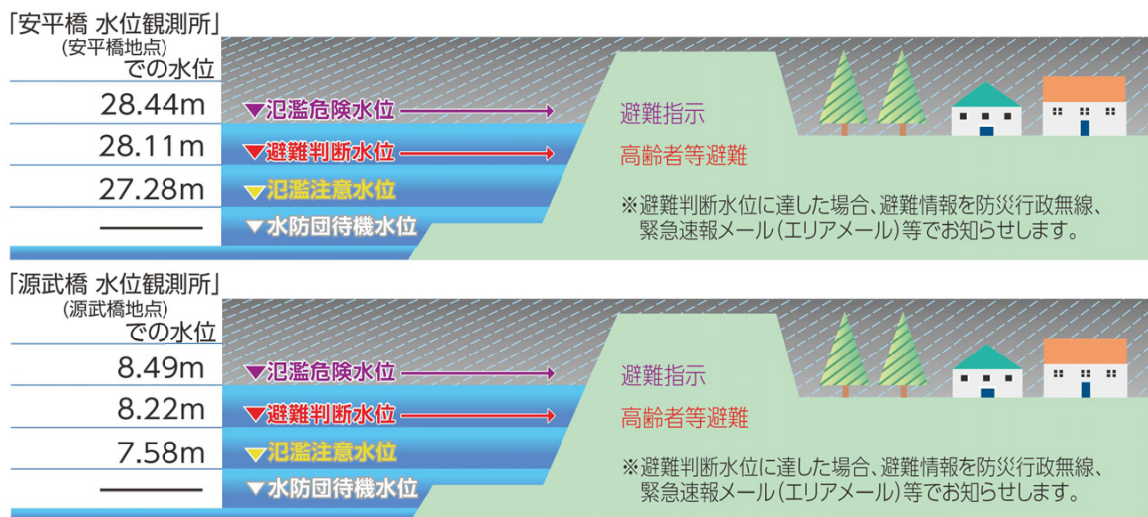
洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害が発生するおそれがある場合、注意を呼びかける予報です。

洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害が発生するおそれがある場合、警戒を呼びかける予報です。



■ 川の水位については、「川の防災情報 <https://www.river.go.jp/>」で入手することができます。



避難情報について

警戒レベルについて

警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたもので、市区町村が避難情報と合わせて出す情報です。

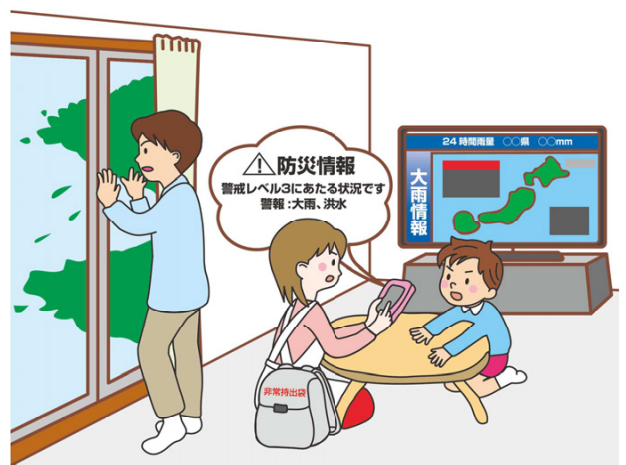
避難情報等 (警戒レベル)				河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
				浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保! ・警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。 ・「警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません!」 ・ただし、警戒レベル5は、市区町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。	緊急安全確保	5相当	氾濫発生情報 大雨特別警報 (土砂災害)
~~~~~ < 警戒レベル4までに必ず避難! > ~~~~~					
4	災害のおそれ高い	<b>危険な場所から全員避難</b> ・警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。	避難指示	4相当	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報
3	災害のおそれあり	<b>危険な場所から高齢者等は避難</b> ・「高齢者等」は障害のある人や避難を支援する者も含んでいます。 ・さらに、高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。	高齢者等避難	3相当	氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報 (気象庁)	2相当	氾濫注意情報 —————
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)	1相当	————— —————

※市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

避難指示等が発令されたら速やかに避難行動をとる必要がありますが、突発的な災害では、発令が間に合わないこともあります。避難指示等が発令されていなくても、警戒レベルに相当する気象情報を認識し、危険を感じたら早めに避難行動をとってください。大切なことは「自分で判断する」ということです。

**警戒レベル5**はすでに災害が発生・切迫している状況です。また、必ず発令されるものではありません。

**警戒レベル3 高齢者等避難**や**警戒レベル4 避難指示**で、地域の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。



(ページ内の図表は内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集)

# 地震対策について

## 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

緊急地震速報

1~2分

3分

5分

10分  
数時間  
3日

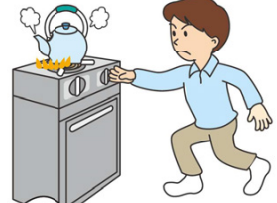
### 揺れを感じたり、緊急地震速報を見聞きしたら

- 手近な座布団などで頭を保護し、避難経路を確認する
- 大きな揺れが来る前に、テーブルや机の下などで身の安全を確保する



### 揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱
- 避難するときは、ブロック塀・自動販売機等に注意



### みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかけよう
- 隣近所で助け合う 災害弱者の安全確保
  - 行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか
- 出火防止 初期消火
- 初期消火 ●消火器を使う ●バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
  - 漏電・ガス漏れに注意 ガスの元栓・電気のブレーカーを切る ●余震に注意



### ラジオなどで正しい情報を

- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●電話は緊急連絡を優先する
- 津波からの避難などやむを得ない場合を除き、原則、車は使用しない



### 協力して消火活動、救出・救護活動を

- 災害情報・被害情報の収集 ●無理はしない ●こわれた家に入らない
- 助け合いの心が大切 ●避難所では、協力し合って自主運営
- 水、食料は蓄えているものでまかなう 最低3日分の飲料水と食料の備蓄をしておく

## 屋内にいた場合

### 家中

- ・緊急地震速報を見聞きしたり、揺れを感じたら、すばやく身の安全を確保する。
- ・火の使用中に揺れを感じたら、揺れが収まってから、あわてずに火の始末をする。(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)
- ・乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。裸足で歩き回らない。(ガラスの破片に注意！)



### デパート・スーパー

- ・カバン、買い物かごなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

### 劇場・ホール

- ・カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。



### 集合住宅

- ・ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- ・避難にエレベーターは絶対使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。
- ※エレベーター乗車中は全てのフロアのボタンを押して下さい。

## 屋外にいた場合

### 路上

- ・その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ・近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ・ブロック塀や自動販売機には近づかない。倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



### 電車などの車内

- ・つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- ・途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- ・乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



### 海岸付近

- ・高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報、警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

### 車を運転中

- ・ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、道路の左側に停め、緊急車両等の通行スペースを確認し、エンジンを切る。
- ・揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- ・避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。